

パリに出羽三山の山伏参上！ 地元の精進料理をアピール ～食文化創造都市「鶴岡」推進プロモーション事業実施報告

パリ事務所

1. はじめに

山形県の西部、庄内地方に位置する鶴岡市は、日本有数の穀倉地帯であり、四季のはっきりした気候と山里と海の独特の地形がもたらす自然の恵みとともに、1400年の歴史を有する出羽三山の宗教文化と結びついた精進料理など豊かな食文化を受け継いでいます。出羽三山は羽黒山、月山、湯殿山の総称で、古くから東日本の山岳信仰の中心地として知られており、フランスの観光ガイドブック、ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャポンの3つ星を獲得しています。市では、国内外の都市とのパートナーシップにより観光等地域産業の振興を図るため、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の創造都市ネットワーク¹に食文化部門での登録を目指しています。



この度、鶴岡市が当協会の「海外経済活動支援特別対策事業」²を活用し、10月12日から15日までの間、パリにおいて出羽三山の山伏による勧進や地元の食材を用いた精進料理のデモンストレーションを行いましたので、以下に報告したいと思います。

2. プロモーション事業概要

現在の鶴岡市は、2005年に6市町村の合併により発足し、東北地方で一番広い面積を有する自治体となっています。この合併に伴い大幅に充実した地元の伝統料理や食材を活用し豊かな食文化を国際的にアピールすることによって、観光客の誘客や地場産品の販路拡大及びビジネス創出等多くの効果を得ることが出来ると考え、パリでのプロモーションを企画するに至りました。

今回の事業では、次の3つのプロモーションイベントの実施とあわせ、ユネスコをはじめとする関係機関及び日本食品取扱業者への訪問などを行いました。

(1) プロモーションイベント

○ パリ・ディドロ大学（パリ第7大学）文化交流プログラム

（10月13日実施、於：同大学）

主に日本語学科の学生を対象に、羽黒修験道と食文化に関する講演及び山伏との交流セッションの二部構成。交流セッションは、大学内の学食に会場を移動し、ほら貝体験

や精進料理の試食を盛り込み実施。参加者約 80 名。



食堂での試食の様子



一番人気、とんぶりをまぶしたおにぎり

○ 山伏勧進及び山伏体験ワークショップ

(10月14日実施、於:パリ国際大学都市日本館)

国際大学都市に居住する各国の留学生を中心に参加者を迎え、東日本大震災での支援への感謝と復興の願いを込めた山伏による勧進の実施、羽黒修験道に関する講演、ほら貝体験及び山伏装束の着衣体験。参加者約 30 名。



厳かな山伏の祈りの様子



山伏装束の着衣体験

○ 精進料理デモンストレーション事業 (10月15日、於:パリ日本文化会館) ³

市民を対象とした、出羽三山で修業をする山伏たちの精神修養を目的とする精進料理についてのセミナー、調理のデモンストレーション及び試食の実施。調理には、地元鶴岡市から持ち込んだ食材も使用。

事前に登録をした市民 80 名が参加 (定員満了のため事前に応募を締切り)。



説明に熱心に聞き入る参加者

(2) 訪問先

ユネスコ本部、在フランス日本国大使館、ユネスコ日本政府代表部、日本食品取扱店・レストラン食材卸業者

3. クレアパリの支援

これらの鶴岡市の取組みに対し、クリアパリ事務所は次の支援を行いました。

- 訪問先の選定などプロモーション事業実施全体の企画に係る助言
- 訪問先のアポイントの取付け及び連絡調整
- プロモーション事業実施全体に係る広報活動支援
- 山伏勧進実施に係る企画作成支援（実施場所の選定等）

今回の事業は、広く参加者を募ったプロモーションイベントの開催や大学での学生を対象とした講義の実施に加えて、日本食品取扱業者への直接訪問を行うなど、多様な対象に対し多彩な手法を用いてPRを行ったことも特徴としてあげられます。

これまで、自治体の経済活動に特化した支援は当事務所としてもめずらしく、支援に当たっては、日頃より連携を図っている関係機関に事務所が有するチャンネルをフルに活用しました。

また、プロモーション対象としての実需者の紹介は、事務所の新たな取組みとなりました。

4. 事業を実施して

市民を対象とする精進料理のデモンストレーションでは、調理法についての料理長の説明を熱心にメモ取りする参加者の様子が印象的でした。フランス人は一般に、日本の歴史や伝統文化に高い関心があると言われていますが、今回のデモンストレーションでの参加者の様子からは、日本食がレストランで食するものから自宅で調理をして楽しむ料理にと、フランス人の日常の食生活に浸透しつつある印象を強く受けました。

また、日本の食材をレストランに卸している日本食品取扱業者への訪問は、レストランでの日本食材の普及状況や日本食に関する認識などを直接聞き取ることが出来、これら業者と今までは全く伝手がなかったことを考えても、今後の鶴岡市の食材の販路開拓に向けての大きな成果と言えます。

鶴岡市が登録を目指すユネスコの「創造都市ネットワーク」は、認定都市に対し、地元には豊かな食文化があるということだけではなく、地元の食文化を世界に対し情報発信していくこと、専門家等の交流を通じて都市間で知識を共有すること、国際会議や国際ワークショップの実施などネットワーク内での継続した役割を求めています。同じユネスコの認定する世界遺産のスキームとは異なる、認定都市間の有機的なつながりを重要視しているところがネットワークと名前を冠する所以のようです。

今回の鶴岡市のプロモーション事業は、パンフレット等によるオーソドックスなスタイ

ルのものとは一味違った五感に響く訴求力のあるプロモーションとなったように見受けられました。

また、今回の事業は認定都市に求められる役割を今後担っていくための、大きな一歩となったのではないのでしょうか。

-
- ¹ 文化の多様性を保持するとともに、世界各地の文化産業が潜在的に有している可能性を都市間の戦略的連携により最大限に発揮させるための枠組みとして、2004年に創設（文化庁HPより抜粋）。①文学、②映画、③音楽、④クラフト、フォーク・アート、⑤デザイン、⑥メディア・アート、⑦食文化の7分野を対象とし、2011年11月現在、28都市が登録されている。
 - ² 自治体国際化協会では、地方公共団体が行う国際経済活動の一層の推進を図ることを目的とし、海外事務所等の機能を活用しながら支援するとともに、その成果を他の団体の経済活動にも活用していくため助成とサポートを一体化させた「海外経済活動支援特別対策事業」を2010年度からモデル的に実施している。
 - ³ 国際交流基金助成事業

（小林所長補佐 東京都派遣）